

令和7年度第3回千葉県県民活動推進懇談会 開催結果概要

1 日 時

令和8年1月9日（金）午後2時から3時30分まで

2 場 所

オンライン

3 出席者

鎌田委員、関谷委員、牧野委員、山本委員、高橋委員、石毛委員、中嶋委員、橋爪委員、根本委員

※以上9名

事務局5名（課長、副課長、県民活動推進班長、担当2名）

4 議事の概要

議事（1）「千葉県県民活動推進計画（令和8～12年度）」の計画原案について

○鎌田座長

最初に、本日の懇談会の開催結果概要については、事務局で取りまとめた後、各委員に確認いただいた上で千葉県ホームページに掲載しますので、あらかじめ御了承ください。

それでは、議事に入りたいと思います。議題1「千葉県県民活動推進計画（令和8～12年度）」の計画原案について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

「千葉県県民活動推進計画（令和8～12年度）」の計画原案について御説明させていただきます。

11月21日に実施しました第2回懇談会では活発な御意見をいただきありがとうございました。

いただいた御意見や市町村及び庁内への意見照会に加えまして、令和7年度の各種調査結果を踏まえ、素案の内容を修正し、計画原案を作成いたしました。

本日は、主に前回お示しした計画素案からの修正点につきまして、資料1の計画原案に沿って、資料2、3、4の概要と合わせて御説明させていただきたいと思います。

まずは、資料1の1ページを御覧ください。「第1章 計画策定の基本的な考え方」、「1 計画策定の趣旨」ですが、後ほど成果指標の状況につきましては改めて御説明しますが、令和7年度の第69回県政に関する世論調査の結果によると、ボランティア活動に関心がある人や参加したことがある人の割合がいずれも前年度に比べ減少していたことから、物価高騰など社会経済情勢が厳しさを増している中で、こうした課題が明らかになってきたことを追記いたしました。

次に、4ページの「共創」の定義やイメージ図についてですが、前回の懇談会において、「できるだけ体系的に共創の事例を記載してほしい」、「多面的な視点を入れることで新たな価値が見え、その成果として、新たな関わり方や成果、スキル、学びなどにつながっていくので、それがわかるように3Dで作成してほしい」といった御意見をいただきました。また、市町村からも、具体的な事例がないことから、協働との区別がし辛いといった意見がございました。

こちらにつきましては、共創の理解促進を図るため、計画の資料編において、具体的な事例を幅広く掲載し、説明を付記することにより、定義やイメージ図を補足するとともに、来年度以降に、各種セミナーなどの機会を捉えて、共創を推進する意義や効果などを広く周知してまいりたいと思います。

次に、5ページの「2 県民活動の必要性」の中で、「地域に山積する課題の例」として、「単身高齢者や高齢夫婦のみの世帯の増加」に、高齢の親と自立できない子どもを抱える世帯が増加している「8050」問題を追記してはどうか、と市町村からの意見がありましたので、追記いたしました。

続きまして、11ページの「成果指標の状況」ですが、先ほど少し触れましたとおり、令和7年度における「市民活動団体、ボランティア活動に関心がある人の割合」、「ボランティア活動に参加したことがある人の割合」は、主に20代から50代の働き盛りの世代で低い傾向にあることから、いずれも前年度に比べて低下し、目標値を達成することができませんでした。

一方で、ボランティア活動に継続して参加している人の割合については、令和5年度及び6年度は増加傾向にありましたが、令和7年度は前年度から2.0ポイント減少し、目標を達成することができませんでした。

次に、12ページの「市民活動団体等の基盤強化等の支援」ですが、先ほどの「市民活動団体、ボランティア活動に関心がある人の割合」が伸び悩んでいることも一つの要因であると考えられますが、「市民活動団体の活動へ参加している人の割合」が前年度に比べて低下し、目標値を達成することができませんでした。

一方で、「寄附を受けたことがあるNPO法人の割合」は毎年増加し、目標を達成しました。

次に、13ページの「多様な主体による連携・協働の促進」ですが、「地域の様々な主体と連携している市民活動団体の割合」については、令和7年度は前年度比で4.3ポイント増加し、目標値には達していないものの、全体の約3分の2の団体が「連携経験がある」状況となっているほか、「市町村行政・県行政と市民活動団体との協働事業の件数」については、目標値を上回りました。

続きまして、20ページですが、「県民活動の現状」のうち、「県民活動に関心がある人の割合」について、性別・世代別にそれぞれ直近3年の状況を掲載しています。多少のばらつきはありますが、主に

20代から50代の働き盛りの世代で低い傾向にあり、特に、50代の男性がこの3年で大きく減少しています。このため、素案では「20代から40代」で低い傾向にあると記載していましたが、原案では「20代から50代」で低い傾向にあると修正しました。

次に、23ページになりますが、「ボランティア人材の受け入れを行っているNPO法人」の割合が6割を超える中で、受入れを行っていない団体に対し、理由を問う設問を今回新たに追加したことから、その回答を追記いたしました。ボランティア人材の受け入れをしていない理由については「活動内容が未経験者では難しい」が最も多く、次いで「受け入れるためのノウハウが不足している」、「受け入れるための人員が不足している」の順に多い結果となりました。

また、次のページに、「プロボノ人材の受け入れ」を行っているかについても、今回新たに設問を追加いたしましたので、その回答を追記いたしました。プロボノ人材の受け入れを「していないが今後は受け入れを検討していきたい」と回答した法人が最も多く、一方で、「している」と回答した法人が最も少ない状況でした。プロボノを受け入れている又は今後受け入れを検討していきたい分野については、最も多かった回答が「Web制作・デジタル活用」となっています。

続きまして、31ページの「Ⅱ 県民活動の促進に向けた課題」「(1) 県民活動の裾野の拡大や継続的な参加の促進」ですが、先ほどから御説明しておりますとおり、社会経済情勢が厳しさを増している中で県民活動を取り巻く課題が明らかになってきたことから、厳しい状況が見受けられることを追記したほか、前回の懇談会において、「若い頃からボランティア活動に参加することによる社会への関心の変化を記載してほしい」という御意見をいただき、大学生への意見聴取においても、活動への参加を通じて地域への愛着が醸成され、更なる活動への参加につながるという意見があったことから、「10代や20代の若い世代が活動に参加することにより、地域への愛着が醸成され、年齢を重ねた後もそれぞれのライフステージに応じた、活動への継続参加につながることも期待できる」旨を追記いたしました。

続きまして、「第5章 施策の方向性」になりますが、ここで、38ページ、41ページ、43ページに記載している新計画の目標値について、「資料4」を御覧いただきながら御説明したいと思います。

こちらに、目標値の新旧比較を記載しておりますが、新計画の目標値設定の考え方としましては、まずは、目標を達成しなかった項目については、目標値を現計画から据え置くこととし、次に、目標を達成した2項目のうち、5つ目の「寄附を受けたことがあるNPO法人の割合」は現計画の初年度である令和5年度から令和7年度までの実績値の伸び率を令和7年度の実績値に加算した82.0%としました。

7つ目の「市町村行政・県行政と市民活動団体との協働事業の件数」につきましても、現計画の初年度である令和5年度から令和7年度までの事業増加件数を令和7年度の実績値に加算した830件としまし

た。

資料1の計画原案に戻りまして、36ページ「施策の方向性1 県民活動への理解や参加の促進・定着」において、「プロボノの推進」に関する行動計画の記載がないという御指摘を懇談会委員からいただきましたので、「(2) ライフステージに応じた県民活動の参加機会の提供と定着の促進」の中に、プロボノの活動機会の提供、受入環境の整備などに取り組むことを追記いたしました。

また、「プロボノの推進」に関しては、県民に対して参加機会の提供と定着の促進を行うほか、受入団体の基盤強化も期待できることから、団体に対してプロボノの受入れを支援することを、38ページの「施策の方向性2 市民活動団体等の基盤強化等の支援」にも追記するとともに、地域ボランティア活動環境整備事業において、市民活動団体への伴走支援の中で、プロボノの受入支援を実施することや、ボランティア活動体験交流プログラムにおいて、プロボノの体験機会の提供を実施することを検討しています。

次に、同じく38ページになりますが、市町村から「中間支援組織の機能強化支援」に関する具体的な事業の記載をしてはどうかとの御意見をいただいたことから、「(2) 中間支援組織の機能強化支援」に、「市民活動支援組織ネットワーク」を組織し、情報交換や研修等を実施していくことを追記しました。

また、同じく38ページ「(3) 民が民を支える仕組みの普及・支援」に関して、市町村からポイント制度を活用した「いちほら推し活制度」について周知依頼がありましたので、県内でも先進的な取組であることから、資料編に掲載し、広く周知してまいりたいと考えております。

最後になりますが、資料40ページの「施策の方向性3 多様な主体による連携・協働・共創の促進」に関しましても、前回の懇談会において、「市民活動団体と地縁組織が協働・共創していく上で、何か地縁団体に光があたるような取組を期待したい」との御意見をいただきましたので、地域における人と人とのつながりが希薄化している中で、地縁組織の活動は重要であることから、資料編での事例掲載や、共創の推進のためのセミナー等での事例発表において、地域の多様な団体と協働・共創している地縁組織の活動を紹介してまいりたいと考えております。

本日は、本原案につきまして皆様から御意見・御助言をいただき、今後、1月末から2月末にかけてパブリックコメントを実施し、その意見を取りまとめた上で最終案を作成いたします。3月18日にオンラインで開催予定の第4回懇談会での御討議を経て、年度内に計画を策定したいと考えておりますので、引き続き御協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

○鎌田座長

御説明ありがとうございました。今日程の御説明もいただきましたが、資料編はこれから逐次整備していくという理解でよろしかったでしょうか。

○事務局

おっしゃるとおりです。

○鎌田座長

各委員にお話を伺いたいのですが、必ずしも毎回、御意見を聞くことができなかった委員もいらっしゃいますので、ここだけは言うておきたいというような補足があれば是非御発言お願いしたいのと、市町村からもたくさん御意見が寄せられていますので、それを御覧いただいた上での感想とか、どんなところからでも結構ですので、感想なりそれぞれの御意見なりを頂戴できればというふうに思います。

それでは、牧野委員、どこからでも結構です。お気づきになったところや御自身の意見等が反映されているかどうかなどについて御発言をお願いします。

○牧野委員

「中間支援組織の機能強化支援」という項目は、多分、ほかの県にはあまりない取組だと思っています。災害支援とかテーマを決めて、研修などを開催していただいています、市町村全体をとおしてとかではなく、例えば、印旛地域の中間支援担当課といったようにある程度地域等を絞った上で、そういう方たちの研修というよりは、情報交流、情報交換のような開かれた場を、県がコーディネートをして開いていただけると、もっと一緒にできることが広がるのではないかとこのように感じます。

昨日、八街のコーディネーター会議で申し上げたのですが、八街も中間支援の場所、機能が縮小されるということもあり、それでは富里や四街道市はどうなのかというところでもっと一緒にできることもあるし、施策もそうですけれど、事例の自慢し合い大会みたいなことでもよいし、そういうふうなことを県にコーディネートをしていただくとよいのではないかと思います。そういった地域ごとの取組もこの計画の中の具体的な施策のところを書いていただくとよいかなと思いました。

○鎌田座長

ありがとうございます。ついコラボ大賞の話になってしまうのですが、コラボ大賞もそういう中間支援団体とかが下支えになっていて、そこから今回のキーワードになっている共創につながっている事例もありますので、そこは大変重要なところかなと私も思います。

各委員に御発言いただいています、事務局から発言内容等について確認したいことがあれば、遠慮なく御発言ください。全然私の進行に従っていただかなくて結構ですので、適宜ご発言いただければと思います。牧野委員の今の御発言に対してはいかがでしょうか。

○事務局

今いただいた御意見について、確認したい事項というのは特段ございません。

○鎌田座長

それでは山本委員お願いします。

○山本委員

前回、10代、20代の若い人がボランティア活動に馴染むことによる社会への関心の変化を記載していただければと発言し、このような形で反映していただいたのでよかったですと思います。それ以外のところは特に気になる点とかこれを更に追加してほしいという要望は今のところありません。

○鎌田座長

山本委員、いろいろな調査結果を見ると、伸び悩みというか逆にマイナスになってしまっているものもありますが、その辺のことについて現場に出ていて何か感じるようなことはないでしょうか。他の委員の方もお気付きの点等あれば、是非、御発言をお願いします。

○山本委員

今回右肩上がりになっていないことについて、若い世代の関心や参加が少ないことが影響しているというのは非常に感じるのですが、それ以外にも、サークル活動もそうですけれど、コロナ禍を経て、活動を休止もしくは辞めるという団体も結構見受けられるので、ボランティアの受け皿となるそもそもの活動団体がどれくらい減ってるのかというのが気になります。

NPO法人についても解散する法人が多くなってきているので、そうだとすると、ボランティアの機会を提供する側の変化というのも結構影響があるのではないかと思います。私たちが参加してきた、それこそ、実行委員会形式で続けてきた活動などにおいても、中心になってきた方が高齢化で継続が難しいということで、少し活動を縮小していこうというようなこともあります。具体的な詳細は分かりませんが、その辺りも影響しているのではないかと感じています。

○鎌田座長

ありがとうございます。事務局の方もよろしいでしょうか。

○事務局

いただきました御意見については質問等はございません。現場の感覚を御発言いただき大変参考になりました。

○鎌田座長

牧野委員、各統計データを見ると少し残念な状況もあるのですが、先ほどの中間支援のスペースが縮小されるといったお話について、今、山本委員がおっしゃったような、母体自体が少なくなっていることも影響しているのでしょうか。

○牧野委員

NPO法人も数が少なくなっているというのは当然あるし、この先で言えば、人口も少なくなります。やはり、法律ができてから27年経って、最初に意気込んで活動していた方たちが高齢化していつて解散するというのも目には付きます。ただ、NPO法人を立ち上げるという相談なども、この1年間で何件か受けていて、あとは、ほとんどが一般社団法人に係る相談です。一般社団は設立も簡単ですし、情報公開の義務もないことから、一般社団のうち、非営利の一般社団がどんどん広がっている気がします。事業ベースで何かをしようというときにはどうしても、一般社団が選ばれやすい傾向となっていることについて、NPO法人としては悲哀を感じています。

ただ、もう一つ言うと、情報公開をしていない分だけ、例えば、ちばのWA地域づくり基金などで申請書が上がってきたときに、その団体がどこでどのような事業を行っているかについて、情報が掴みにくく、なかなか困難な場合もあります。

○鎌田座長

いろいろな状況が立体的に見える大変参考になる御意見、コメントでした。ありがとうございました。

それでは、高橋委員、全体の御感想や御意見のほか、特に社会福祉協議会の側から見えてるいろいろな課題など、そこら辺の状況がしっかり盛り込まれてるかどうかについていかがでしょうか。

○高橋委員

今の説明を聞かせていただきまして、13ページの説明をいただいたときに、多様性ということも含めて「地域の様々な主体と連携している市民活動団体の割合」が4.3%増えたが目標よりも下回ってしまった件について、私どもの活動は連携がなければ進めていけないので、この連携があまりできないところはどんなふう活動しているのか、自分たちだけで全てができてしまうのかと疑問に感じてしまいました。

それから、先ほど、山本委員の御意見もそうだったのですが、やはり早いうちにボランティア活動に参加をしていくことにより、仕事を退職されたときなどにおいて、ボランティアに入るきっかけができるのではないかと思いますので、そのことが計画に反映されたのは非常に良かったと感じているところです。

あと最後にもう1点は、ボランティア活動に参加する意義とか特典といったものが、活動にお誘いするに当たって、必要な大きなものになってきているのではないかと考えています。現在、私たちのボランティアに参加していただいている方はほとんど一本釣りというか、個別に勧誘した方が多い状況です。活動の中でひっくるめて皆さんをお誘いすることがなかなか難しく、社協で行っている高齢者の食事サービスも、地域によっては作り手がなかなかいなかったり、お手伝いする人が配食できないといったこともあるため、自分たちだけではもうできないから業者さんに頼んでいる市町村社協もあります。ボランティアに

参加してくださっている方は、自分が見ている中では個別にお願いしている場合が多いので、何かボランティアに対する参加する意義とか特典がはっきり見えるとよいのではないかと感じました。

○鎌田座長

事務局いかがでしょうか。

○事務局

貴重な御意見ありがとうございました。

○鎌田座長

高橋委員、共創のイメージ図と伝え方について今までいろいろ議論してきましたが、この点はいかがでしょう。全委員の御意見を漏れなく盛り込むことは難しく、前回の懇談会でも、資料編をもって、できるだけ補足しながら理解していただく方向でやっていこうという話になりましたが。

○高橋委員

これに対して、説明が加わるということも先ほどお話いただいたので、このイメージ図で大分すっきりとして分かりやすくなってきているのではないかと感じているところです。

○鎌田座長

それでは、石毛委員いかがでしょうか。

○石毛委員

今の高橋委員のお話を聞いて納得したところなのですが、市の社会福祉協議会としてかなり昔から活動している中で、ボランティアの年齢層がどんどん上がってしまい、なかなか若い人たちが加わってこないというのが実情です。

私たちがいろいろなイベントをさせていただく中で、既存のボランティア団体の御協力をいただいて、様々な活動ができてるところですが、やはり、いざとなると高齢者の方にボランティアをしていただくというところで、どうしても引っかかりが出てくるというのが実態でございます。

そして、私たちが福祉活動計画に取り組む中で、3年前から、地域の懇談会というものを開催しております。これは、地域の4校の中学校区の皆様方にお集まりいただいて、子どもや外国人の方にも参加していただき、その地域に合った活動はどのようなものなのかについてお話をさせていただいています。取組が始まってもう3年になりますけれども、今年は何と各地区半分ぐらい新しく参加された方がいらっしゃいました。これは非常に私たちにとっても嬉しい話で、常に毎回同じ顔だったのが今までの状況だったのですが、各4中学校区の懇談会に新しく参加した方が概ね半分近くいらっしゃったというのは、非常に成果だと思っています。こういうところをきっかけに、社会福祉協議会としましても、皆様が関心を持っていた

だいた地域活性化は、自分たちがある程度動かないとできないということも含めて皆さんに御協力をいただくという趣旨で進めてるところでございます。

それともう一つ、これも前にもお話をしたのですが、小学校・中学校の子どもたちが、中学校は生徒会の役員さん方が主体となって、何と推し活クラブというものを作り、八街市としてこれを推すんだということで、いろいろなイベントに推し活クラブとして子どもたちが参加し、大人の方にアピールするというような取組が少しずつ始まってきています。

また、小学校では各地区の駄目なところをどうしようというのではなく、良いところをもっともっと広げていこうというような動きも出てきております。

そして、夏休みにはボランティア体験教室というものもやっておりますが、ボランティアに参加する子どもたちは、今年は去年の倍ぐらいいらっしゃいました。

こういったところも、八街市としては成果として感じており、少しずつ、子どもたちがボランティアというものを実感して、これからどう進めていけば八街市が変わっていくのだろうかというところを学んでいていただきたいなと思っているところです。我々も子どもたちに遅れないように頑張って、子供たちのために、将来の八街を見据えて頑張っていきたいというふうに考えています。

それと計画についてですが、11ページの表の中の「市民活動団体、ボランティア活動に関心がある人の割合」は数値としては下がっているのですが、どの年代が下がっているのかがなかなか掴みづらかったので疑問に思いました。もしかすると子どもたちの年代が、上がってるということもあるのかなと期待をしているところでございます。

○鎌田座長

ありがとうございます。今御指摘があった11ページの年代別の細かい分析はどこかに説明ありましたでしょうか。

○事務局。

20ページに記載はあるのですが、おっしゃるとおり子ども世代についてはこちらに掲載はしておりません。

○鎌田座長

石毛委員から御意見があったように、地域に合った活動ということや、メンバーが半分ぐらい新しくなったということは大変喜ばしいところなのですが、御高齢になったNPOを立ち上げた方々がリタイアして、次の新しい方々が新しいやり方で活動していこうというときに、牧野委員がおっしゃるように、それはNPOだけではなく、一般社団法人だったりとか、いろいろな形態になってきているというちょうど潮

目が変わるといふところなのでしょうか。そういう状況で、一時的に指標が上下しているということであれば、理解できる気もしますが、その辺について関谷委員はいろいろと御存知でしょうから、最後にまた解説していただければと思います。

○事務局

先ほどの発言の補足をさせていただいてもよろしいでしょうか。

○鎌田座長

どうぞお願いします。

○事務局

県政に関する世論調査ですけれども、こちらの対象者は、住民基本台帳を使用して満18歳以上の個人3,000人が無作為に抽出されており、いわゆる子ども世代は対象となっておらず、集計の対象外となっております。

○鎌田座長

元々のデータにないということですね。ありがとうございます。

○牧野委員

今のところについて発言してよろしいでしょうか。

○鎌田座長

どうぞ。

○牧野委員

「市民活動団体の活動やボランティア活動への関心の割合」について、全体は確かに低下していますが、20ページのこの表を見ると、20代～40代は、前年に対して伸びていることが分かります。このため、計画の書きぶりとして、この点を取り上げてよいのではないのでしょうか。

○鎌田座長

確かに、そこは注目点だと思います。事務局はその辺いかがでしょうか。

○事務局

牧野委員からお話いただいたとおり、令和7年度の世論調査の結果では、20代～40代の方の割合は前年度より増えている一方、50代や60代以上の方の割合が下がっており、こうした状況が今回の調査結果の特徴となっています。

計画の書きぶりについては、いろいろ悩んだところではありますが、直近3ヶ年での20代～50代の方の割合の平均では相対的に低いというような状況があり、計画の書きぶりとしては20代～50代で

低い傾向にあるという記載をさせていただきました。

ただ、牧野委員から御指摘いただいたとおり、20代～40代の方の割合が前年度より少し上がっていますので、計画の中での記載については、改めて第4回懇談会に向けて検討したいと思います。

○鎌田座長

ありがとうございます。牧野委員よろしいでしょうか。

○牧野委員

20代～40代の方の割合が前年度より上がったのは、きっとちばボランティアナビの成果もあると思います。そのように記載できませんか。

○事務局

ちばボランティアナビの登録者は、個人が4,026名で、団体も216の団体に登録をいただいている状況です。個人で見ますと、10代、20代の方が過半数を占めており、こうしたことも若い方が増えていることに若干つながっているのではないかと考えています。

○牧野委員

是非、記載してください。

○鎌田座長は

ありがとうございます。それでは中嶋委員お願いします。

○中嶋委員

イメージ図とかは、より細かく分かりやすくなったのではないかと個人的には感じています。

また、若い世代のボランティア活動に対する関心とか、それを取り巻く環境といったこととの関連で、今回、高校生と協力して、駅前をイルミネーションで明るくしようという活動をさせてもらったのですが、その駅を利用する地元の高校の先生のところへ相談に行ったら、約10名の高校生たちが一緒に参加をして飾り付けをしてくれました。本人たちも、ボランティア活動に対する興味はもともとあるけれど、きっかけやとっかかりが分からないので、逆に声を掛けてもらって自分たちで飾り付けできるのが楽しかったと言ってもらえました。そういったボランティアに興味がある若い世代の方はもちろん多いわけではないのですが、多少なりともいることはいるので、働きかけだったり呼びかけだったりというそういった場所を作るのが、結構重要になってくるのではないかと今回感じました。

○鎌田委員

ありがとうございます。それでは橋爪委員いかがでしょうか。

○橋爪委員

特に地縁団体の可能性について非常に危惧しているということを前回の懇談会でも少しお話したと思うのですが、40ページのところで、多様な主体が連携・協働・共創して、その活動を支援するというふうに書いていただいております。私たち地方の自治体とすれば、いろいろな先進事例とか情報がとにかく欲しいので、先ほども資料編などで事例を紹介していただけるようなお話をされていたことから、随時、適宜、事例の情報共有を県の方をお願いしたいと思います。

計画の内容については、私の意見は特にありません。

○鎌田座長

ありがとうございます。共創やライフステージなどの部分の伝わりやすさはいかがでしょうか。

○橋爪委員

これまで連携・協働はなんとなくイメージがつくのですが、共創についてはあまりイメージつかないため、共創の事例というのを広く紹介していただければ、地方の自治体にとって参考になるかと思います。

○鎌田座長

市町村からいただいた御意見の中にも、協働と共創の違いが分かりにくいという意見があったので、そこら辺は、いろいろな事例等の中で御理解いただくということになるのだと思います。

○橋爪委員

特に地域課題を抱えている地縁組織も多いので、協働・共創により地域資源やいろいろなものを生かして、上手く解決に導いている事例を紹介していただけると助かります。

○鎌田座長

ありがとうございます。それでは根本委員、お願いします。

○根本委員

計画につきましては、委員からの意見や市町村からの意見を十分に取り入れていただいた原案になっているかと思うので、計画の原案につきましては特段、追加の意見というのはございません。

ただ、1点だけ、言葉の意味を確認させていただきたいところがございまして、資料の5ページの県民活動の必要性の中の上から2段落目に記載されている安心・安全な生活という表現について、通常、安全・安心というのが一般的に聞くとところではあると思うのですが、安心というのを前に出しているところ、何か意図というか、思いというか、そういったものがあるのか参考までに教えていただければと思います。

○鎌田座長

ありがとうございます。事務局はお答え可能であればお願いします。

○事務局

この記載については、これまでの計画と同様の書きぶりではありますが、おそらく安全というと、危機管理といったことが前面に立っているように見えてしまうことから、安心という表現を最初に持ってきたのではないかと推測されると思います。

○鎌田座長

ありがとうございます。根本委員よろしいでしょうか。

○根本委員

はい。

○鎌田座長

御欠席は伊藤委員だけなので、あとは関谷委員にいろいろな方面から総括をしていただければよいかなと思います。いつものように、いろいろなデータ上の変化もありますので、その辺の解釈とか、解析といますか、どういう視点で見ればよいかなどということも含めてご披露いただければと思います。よろしくをお願いします。

○関谷委員

実は今日申し上げようと思っていたことを皆さんがおっしゃられたので、重なってしまう部分もあるかなと思いますが、その点も含めて改めて何点か指摘させていただきたいと思います。

まず一つは、共創のイメージの話で、確かに、図で示すということにはなかなか限界があるかなというふうにも思いますので、文面含めて気持ちが非常に伝わってくる原案になっていると思います。だからこの辺、もちろんこれでもよいのかなというふうにも思いますけれども、市町村からの声の中でもあったように、協働と共創の違いは何なのかという辺りがもう少しクリアになると、多分この共創という言葉が生きてくるかなというふうにも思います。

なかなか難しいところはあると思うんですが、前回申し上げたことに加えて申し上げると、多分協働というのはとにかくいろいろな活動団体、多様な主体が連携していくということに重きを置いた定義付けとか、イメージや理解、あるいは取組だったと思います。一方で、共創はその地域の魅力を高めていくとか、新しいサービスを作るといった、総じて新しい価値を作っていく取組であるというところにウエイトを置いた定義づけとなっており、これについては私は良いと思います。

そういう意味で、もうある種、今日からすると言い古されてしまっている感もある多様な主体の連携と

いうものを一步推し進めて、いろいろな意味での価値創りというものをこれから本格化させていこうという意味でこの共創という言葉、千葉県として使っていくことは、私は良いことだと思っています。

ただ、その新しい価値を創るということをどういうふうにイメージすればよいのかというのは、確かに定義上しづらいところもあるので、御提案のようにいろいろな事例を共有しながらイメージを少しずつ膨らませていくことが大事だと思います。その点は私は賛成です。

そのことを踏まえた上で、もう一つ付け加える点があるかなと思うのは、4ページにある今のイメージ図の中では、多様な主体が関わって、新しい価値創りという方向に矢印が向いているわけですが、これはもちろんこのイメージでもよいのですが、私のイメージだと共創によって、周りにある個々の団体、様々な主体が変わってくるというイメージが加わってくるのではないかと考えています。例えば、自治会も、いろいろな地域の人たちと連携して活動してきたけれど、それでもなり手がいないとか、活動が非常に停滞しているというふうな状況が都市部でも農村地域でもやはり見られています。

しかし、共創ということで、もっといろいろな人たちとタッグを組んで活動することにより、自治会の意義というものが見直されたり、やることを減らす代わりに価値のあることに絞り込んで活動することで、自治会の存在意義を高めていくとか、あるいは、前回は少し申し上げましたが、自治会をはじめ様々な活動団体が小学校区ぐらいのコミュニティの中で、いろいろな結びつきを改めて強化していくことで、その地域の魅力をもっと高めていくことができます。

そういう中で、自治会も新たなリーダーシップを発揮できるとか、NPOも新たな役割を見いだしていくとか、そこに社協もまた大きな役割を果たしていくとかというように、こういった取組に関わることによって、自治会も変わることができるし、NPOも変わることができるので、既存の取組に加えてそういう取組に関わることで、何かこうバージョンアップしていくような、そういうふうなイメージをこの共創に含ませていくと、従来の協働とは違うということイメージしてもらえないかと思っています。自治会もこれから変わっていかねばならないわけだから、共創に加わることによって自治会も変わっていきましょうというようなムードを上手に作り出していけるとよいのではないかと考えました。そういう意味で、既存の個々の活動団体も、この共創によって、良い意味でこう変わっていくんだというニュアンスを少し加えていただくとよいのかなと思います。それがまず1点目です。

それから二つ目は、先ほど牧野委員がおっしゃっていた中間支援のところですが、私もいろいろな市町村に関わっている中で実感するのは、市町村単位での中間支援の動きというものが、弱まっているということです。

牧野委員のところでは支援されてる四街道市などのように、安定した動きを見せているところもあります

が、全体として見ると、市町村単位の間接支援の取組というものが、若干足踏みしてるような印象を受けます。その中で、何でそうなるのかなという、多分、これまで協働ということで、いろいろな各方面の団体同士をつないで連携させるための支援を中間支援の方で取り組んできた部分もあるとは思いますが、いかんせんずっと言われてるのは、短期的な成果を出せという圧力が非常に強いからだと思います。だから、そういう意味では、単年度で取り組むことができる事業には取り組むかもしれないけれども、協働とかの動きというのは、先ほどから言ってるように、いろいろな立場の人たちが織りまざっていくわけなので、当然相互理解をするだけでも時間がかかるし、ましてやいろいろなスキルの違いみたいなものもありますから、その辺を時間をかけて少し練り込みながら、協働・共創に関わる人たちを育てていくといった部分が間違いなく必要だと思います。しかしながら、なかなかそういう視点で中間支援を充実させるという動きになっていないのが、今の市町村の実情だと思います。どうしても短期的な成果主義になってしまうので、それ以外のことはなかなかやろうとしない、下手をすると、どんどんこう縮小傾向になっているのが、多くの市町村に見られるあまりよくない傾向だと思います。

このため、市町村として今後、協働、更には共創ということを考えていくときに、市町村レベルでどういった中間支援をしていくのかという部分は、これから相当それぞれが踏み込んで考えていかなければいけないし、県の方も、個々の市町村で行っている中間支援をまた充実させられるような学びの場を作ったり、スキル提供をしていくことが必要になってくるかと思っています。

そういう、市町村単位の間接支援の動きが停滞しているという部分が気になるので、その辺を今後少し強化していくというような視点をもう少し前面に出してもよいのかなというふうに改めて思いました。

それとあわせて、これもやはり実感するのは、協働の段階からそうですけれども、横の繋がりを作っていくことに対するある種の及び腰というか、なかなか立場を超えて出会うことや、連携・協力して事業を行うことに対する躊躇感が行政の側にもあるし、個々の活動をされてる方々の中にもあるように思います。これはもう昔から言われているように行政も縦割りだけれども、地域も縦割りだという部分が、正になかなか改善されていないという状況があるからだと思います。

だから、私のイメージだと、市町村の間接支援というのは、そこをどうならしていくかだと思います。その壁を越えて、いろいろとでこぼこがあるものを、何とか少しずつ融合させていくというんでしょうか。そういう意味では、横のつながりとか、点ではなく面にしていくといったそういう場づくりというものを、やはり市町村ベースで、まず取り組んでいくことが問われていると思うのですが、この動きも市町村は非常に弱い状況です。

そして、縦割りを越えていくということもそうだし、共創ということで新たな価値づくりということに

取り組むのであれば、やはり共創でどういうことを行えばよいのかというイメージが圧倒的に不足しているように思います。そして、その辺のイメージが湧かないから、どういう面を作っていけばよいのかということが、政策担当者も、地域で活動されてる方々も分からないのだと思います。

このため、そういう意味では、もっとイメージを喚起するような動きというものに県が率先して取り組んでいていただけると、大きな動きになっていくと思いますので、そういう面づくりの弱さを強化していくことを含めた中間支援強化を是非お願いできればと思いました。

それから三つ目が、先ほどから20ページのアンケート結果のところ、活動に対する関心の増減についてお話をされていましたが、私も牧野委員から御指摘いただいたとおりのことを申し上げようと思っていました。

確かに、50代以上の男性は関心は低下していますが、特に20代から30代ぐらいまでの男性の関心は上がっており、これは間違いなく、アピールしてよいのではないかと思います。もちろん相対的に見ると、若い世代の関心が低くて、上の年代になればなるほど関心が高くなるというのが従来からの傾向ですけれども、従来低いと言われていた年齢層において上昇傾向が見られるというのは、私もやはり特筆すべきことではないかと思いますので、ここら辺の傾向をしっかりとくみ取った方がよいと思います。30代女性も上がっていますよね。だから、若い世代あるいは中堅世代の中で、そうした傾向が出てきているということを引き上げながら、捉えていく必要があるのではないかと思います。

これは恐らく、50代以上の方が地域活動に対して従来型のイメージを強く持っているのに対し、若い世代の方はそのあり方では駄目だと思っているのだと思います。このままでは駄目だな、でもどうすればよいかよく分からないと言って、どんどん関心が下がっていってしまう傾向は、いろいろな方々の話から実感しています。

このままでは駄目なんだというのは皆さん分かっているけれど、その展望が開けないからもういいやというふうに、ある種の諦めムードになってるのが50代以上の年代の方なのだと思います。それに対して、若い世代というのは、そういう従来と違うやり方があることを、様々な情報を入手することによって、イメージが少しずつ膨らんでいるんです。もちろん県が提供してる情報リソースもそうだし、様々なところから情報を得ることによって、例えば、ビジネスでやっていくことと地域の課題解決を結びつけることでいろいろなことができるという情報を若い世代の方は少しずつ汲み取ってきているのだと思います。それが関心の高まりの内容で、まだまだ相対的には数は多くはないかもしれないけれども、そういう着実な芽生えみたいのが出てきているので、そういう意味では、従来とは違う形での地域への参加の仕方とか、そのためのスキルや方法というものを学ぶような場というものを作っていけば、新たに出てきてる層とい

うものを多分もっと引き上げられると思います。さらに、先ほど、面づくりと言いましたが、若い世代と上の世代をつないでいくことができれば、こういった傾向をもっと上手に生かしていけるのではないかと思いますので、その点も今後の新たな課題であると感じています。

いずれにしても、こういう若い世代は、単なるボランティアというよりも、先ほどのプロボノのように働きながらボランティアができます。まだまだ地域での受入れは弱いので、プロボノを生かしていこうという動きも弱いのですが、これにもっと取り組んでいったらこういう世代はもっと引き上がってくるのだと思います。そういう意味では、新たなスタイルで地域に関わっていくことができるというイメージ喚起、それからそのためのスキル提供というものをそれぞれのライフステージに見合うような形で上手に刷り込んでいけると、それぞれの立場なりにできることが増えてくるのではないかと思います。次期計画案ではライフステージを強調されているので、働きながら地域に関われるといったように、いろいろな地域に関わる入口とか、スキルや方法があるということを手に見せていくことが大事なので、県の方としてもその辺を上手く膨らませていくような情報発信をしていった方がよいと思います。共創を上手に活用することにより、従来とは違う形で地域に関わることがこれからはできるようになるということを表すことができれば、変わってくる場所もあるはずなので、学びと参加はやはりスパイラル的に捉えていく必要があり、そういった方向性を少しでも強調していただくと、非常に良くなるのではないかと思います。

○鎌田座長

ありがとうございます。事務局は質問や確認したい事項はありますか。

○事務局

御意見ありがとうございます。

今回、協働と共創が分かりづらいといった御意見をいただき、計画の資料編の中で、事例を記載するというお話をしましたが、来年度はそれに加え、各市町村も含めた会議やセミナーといった機会を活用して、共創を推進することの意義や効果等を周知していきたいと考えています。

また、市町村支援については、市町村の方からも広域的な連携を支援してほしいといった御意見をいただいております。今も協働のまちづくりセミナーを各地域で市町村の方と一緒に実施したり、市町村へのアドバイザー派遣なども実施しているところですが、そのほかにも、今年度、影山氏に県民活動推進コーディネーターとして県に関わっていただき、いろいろな市町村を回ってコーディネーターや連携の支援を行っていますので、来年度以降も引き続きこうした取組を進めていければと考えています。

20代や30代の方が令和7年度は増えているということについては、計画に記載する方向で検討を

進めたいと思っておりますので、次回の懇談会の際に、どのように記載したかを委員の皆様にお示しできればと考えています。

○鎌田座長

次回の懇談会では、資料編の骨格をある程度示していただけるのでしょうか。

○事務局

次回の懇談会では具体的な内容までは難しいのですが、こういう内容を資料編の中で記載をしていきたいという骨組みのようなものをお示しできればとは考えております。

○鎌田座長

関谷委員がいろいろとおっしゃってくださったところをできるだけ読み取れるような事例を記載できればよいと思います。例えば、先進事例ではなくても、先ほど関谷委員がおっしゃっていた20代、30代ではボランティアという概念そのものが違ってきているといったことを示すことができるような事例、非常に萌芽的な事例でもよいと思います。数は少ないのでしょうかから相当探さないと出てこないのですが、そういうような事例はないでしょうか。そういう事例を見つけ出して、新しいボランティアの事例を示すことができればよいかもしれません。

また、これも関谷委員がおっしゃっていましたが、中間支援を時間をかけて育てていくことを行政が苦手としているというのはそのとおりだと思いますが、そういう中で、苦勞されながら時間をかけて育ててくる様子が出ている事例だとか、なかなか光を浴びていない事例を新しい芽としてできるだけ拾い上げることができれば、常にある流れがあり共創の形が出てきて、そこで1回お互いを補完しあい、もう1回流れを戻して、それがまた循環してスパイラルアップしてく様子を示せるかもしれません。そうなる立体になるのですが、立体表現はできないから、時間をかけて共創になり、また力が入って次の共創につながるという動き、時間をかけて動いているという時間の変化みたいなものが読み取れるような事例、先進・有名事例でなくても、そういう事例を是非各委員に御紹介いただければと思います。今後、関谷委員も含めて、これについてはこの事例で紹介すればよいというものを是非、持ち寄っていただければと思います。多分、資料編もただ資料を並べたものではなく、共創とライフステージをダブルで理解できるような資料編の並べ方ができれば、読んだ方の理解が進むと思うので、資料の並べ方がポイントではないかと思いました。

是非、事例集をどうやって生き生きと示すかというところで、20代～40代の部分も含めて、そこは我々全員で関わったらよいかと思います。そうすると資料編と抱き合わせて、各委員に御指摘いただいたところの理解がより深まるのだと思います。

総括ではないのですが、参考になるところを拾い上げて、素敵にまとめ上げていただければいいかなと思います。

各委員ここは言い忘れたということがあれば、是非お願いいたします。いかがでしょうか。

○山本委員

今の話と異なる視点なのですが、20代～40代がこの数年間で伸びてるというお話について、それは能登半島の災害のことなども非常に大きかったのではないかと思いました。若い世代の人がボランティアに入っていると、実際にそういうところに行ったということが、結構メディアにも出ていましたし、実際動いている方というのが若い世代であるということもあるかもしれないですし、大学や企業、あとは有名人の方も寄附をしていたといったことの影響があったのかもしれないです。千葉県のことではないのですが、日本の情勢的に、そういうことに対する関心というか、高まりはやはり大きいのではないかと感じました。

○鎌田座長

ありがとうございます。各委員、包括的なところで、言い残しがないようにお願いします。牧野委員、大丈夫でしょうか。

○牧野委員

自治会・町内会などの地縁組織というところと言うと、やはり聞こえてくるのは加入者が減ってるとか役員のなり手がなくなるとかといった話ばかりで、加入率でいったら50%を切ってるような市町村もたくさんあります。このため、八街では、今年で3年目になりますが、市町村、自治会・町内会で行っていることを皆で褒め合おうという自慢大会を開催しています。大人は褒められることが本当になくて、代々受け継がれて町会長を務めていたり、前例に基づいて活動しなければならなかったりで、少し新しいことを行っても褒められることはあまりありません。このため、八街では、「八街のいいね！を語ろう会」といって、事例を3つ、4つ発表し合う活動を行っています。そうしたら、移送サービスを自分たちの自治会・町内会でも取り組んでみたいということで、活動が広がったりしました。だから、研修も大事なんですけども、ボランティアでも自治会の役割でも、いろいろな取組を皆で褒めたたえるみたいな仕組みもよいのではないかと近頃は思っています。大人は本当に褒められることがなくて、やって当たり前みたいに思われるのですが、そうではないという雰囲気や空気をつくることができれば、地域づくりなどに対する参加の仕方もいろいろな参加の仕方があると示せるのではないかと思っています。

○鎌田座長

ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。石毛委員、八街の褒め合おうというのは地域性が

もしれませんがいかがでしょうか。

○石毛委員

やはり市民が、そういう声にいかに乗ってくるかというのが本当に課題だと思っています。美味しいお店は人伝いにどんどん流行ったりするのですが、ボランティアや地域づくりに関しては、なかなか友達に声を掛けたりすることができないのが大人の悪いところなのかもしれません。やはり楽しいということが重要だと思うので、何か自分達で考えて楽しみながら活動に取り組むことができれば、もっともっと活性化していくのではないかと感じているところです。

○鎌田座長

もう残り時間は少ないですが、中嶋委員、楽しいということを引き継いで、何か良い事例とかアドバイスはありませんでしょうか。

○中嶋委員

私たちは今回、楽しみながらイルミネーション飾りを行いました。それ以外にまた、今後、楽しんで取り組めることがあれば、取り組んでいきたいと思えます。

○鎌田座長

褒め合ったり、励まし合ったりする良い事例があればまたぜひ御紹介ください。

○鎌田座長

議題1についてはそのほか御意見ありませんでしょうか。それでは、皆さん御意見はないようですので、議題1は以上とさせていただきます。

あと、委員の皆様からこの件とは別に紹介をしておきたいとか、ご案内したいというようなことがあれば御発言願います。いかがでしょうか。ないようですので以上をもちまして、本日の議事を終了したいと思います。事務局にお返しいたします。

○事務局

鎌田座長をはじめ、委員の皆様におかれましては、長時間にわたり活発な御議論をいただくとともに、貴重な御意見を賜り誠にありがとうございました。

頂戴した御意見を踏まえ、この後、計画案の策定作業を進めて参ります。

次回の第4回懇談会は3月18日にオンラインで開催する予定です。

次回の懇談会では、今懇談会及びパブリックコメントの結果を踏まえ策定する計画最終案について御報告させていただき、その後年度内に計画を公表する予定です。

以上をもちまして、令和7年度第3回千葉県県民活動推進懇談会を終了いたします。本日はありがとう

ございました。